

学習指導要領改訂に向けた

授業改善 Q & A (基礎編)



1. 新学習指導要領について
2. 主体的・対話的で深い学びについて
3. 新大分スタンダードについて

平成 29 年 3 月
大分県教育センター

目 次

1. 新学習指導要領について…………… P 1

- Q 1 新学習指導要領は、いつから全面实施になりますか？
- Q 2 新学習指導要領全面实施までの期間は、何をすればよいですか？
- Q 3 新学習指導要領において授業改善が求められているのは、なぜですか？
- Q 4 これまで行ってきた授業を変える必要がありますか？
- Q 5 小学校の外国語は、いつから全面实施ですか？
- Q 6 「特別の教科 道徳」は、いつから全面实施ですか？

2. 主体的・対話的で深い学びについて…………… P 3

- Q 7 主体的・対話的で深い学びの実現とは、どういうことですか？
- Q 8 主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善で大切なことは、何ですか？
- Q 9 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業は、毎時間行いますか？
- Q 10 授業において教師は、どのような役割を果たせばよいですか？
- Q 11 主体的・対話的で深い学びの実現には、どのような学び方が効果的ですか？
- Q 12 評価は、どのようなことに気をつければよいですか？

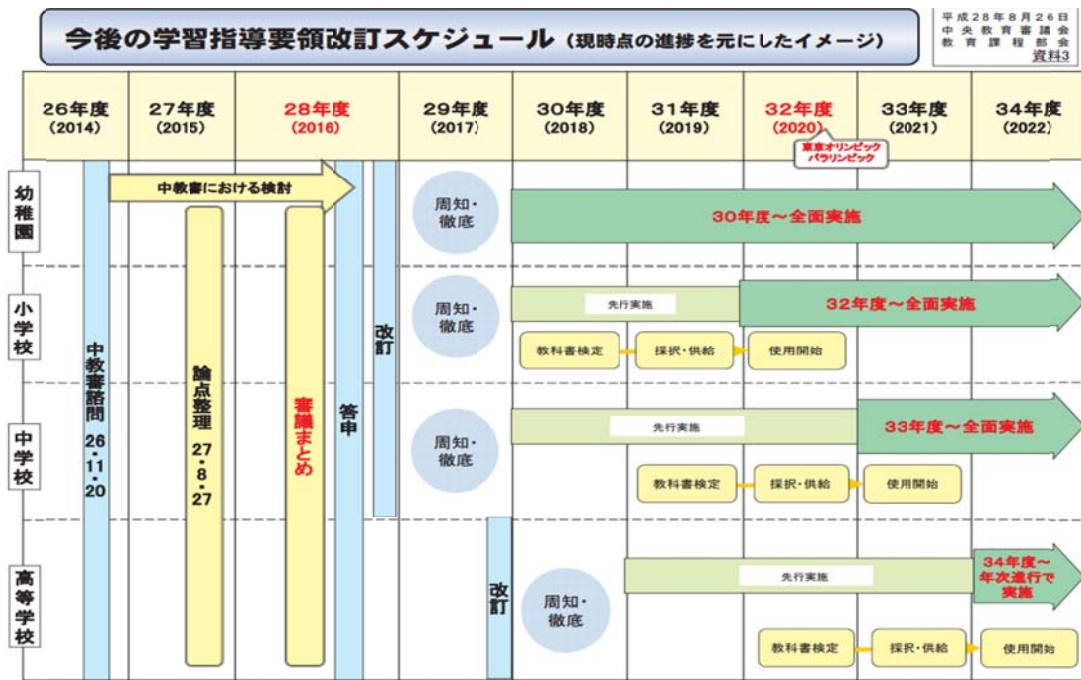
3. 新大分スタンダードについて…………… P 5

- Q 13 新大分スタンダードとは、何ですか？
- Q 14 1時間完結型の授業とは、どのような授業ですか？
- Q 15 「めあて」と「課題」は、両方設定する必要がありますか？
- Q 16 「めあて」や「課題」は、どのような表現にすればよいですか？
- Q 17 「まとめ」と「振り返り」の違いは、何ですか？
- Q 18 「まとめ」は、どのように行えばよいですか？
- Q 19 「振り返り」は、どのように行えばよいですか？
- Q 20 板書の構造化とは、どういうことですか？
- Q 21 習熟の程度に応じた指導において大切なことは、何ですか？
- Q 22 生徒指導の3機能を意識した授業とは、どのような授業ですか？

1. 新学習指導要領について

Q 1 新学習指導要領は、いつから全面実施になりますか？

A 1 小学校は平成 32 年度、中学校は平成 33 年度、高等学校は平成 34 年度から年次進行により全面実施となる予定です。



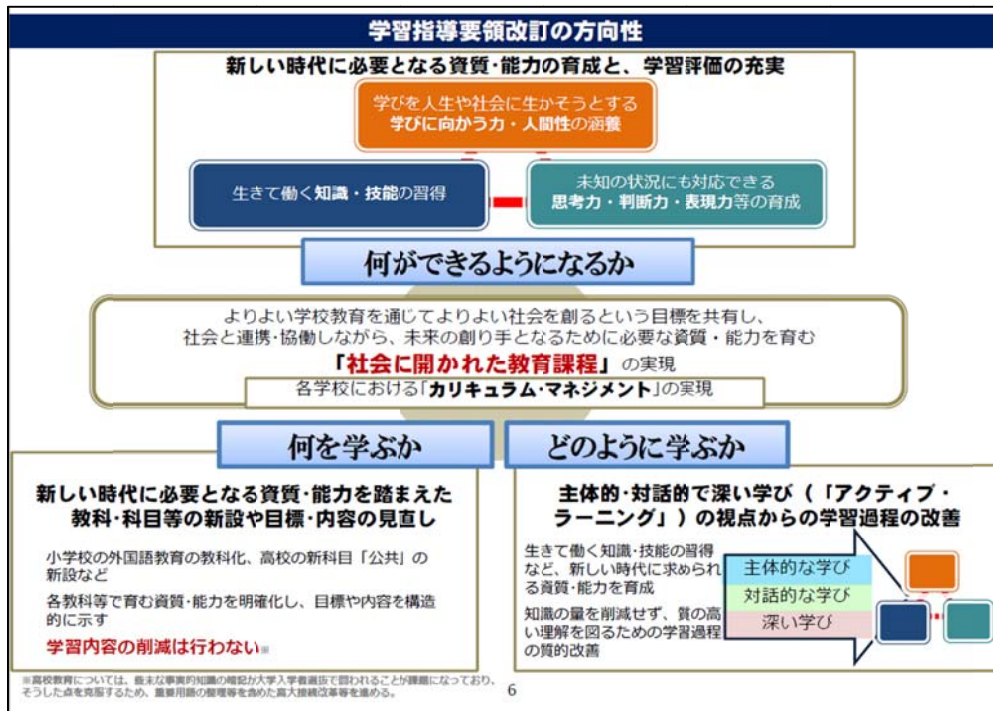
(中央教育審議会教育課程部会資料)

Q 2 新学習指導要領全面実施までの期間は、何をすればよいですか？

A 2 全面実施までは、各種答申や各教科の学習指導要領解説等を読み込んで、これからの時代に求められる教育について、理解を深めておくことが大切になります。授業については、授業改善の視点（主体的・対話的で深い学び）がすでに示されていますので、全面実施を待たず、授業改善に取り組みましょう。

Q 3 新学習指導要領において授業改善が求められているのは、なぜですか？

A 3 これからの未来を生き抜いていく児童生徒は、社会の加速度的な変化の中で、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められています。このような社会に児童生徒が対応できるようにするためには、授業を通して必要な資質・能力を育成する必要があります。そのため、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善が求められています。



(中央教育審議会教育課程部会資料)

Q 4 これまで行ってきた授業を変える必要がありますか？

A 4 これまで行われてきた授業を全て否定するものではありません。しかし、教師が一方的に説明して児童生徒がノートに書き写すだけの授業ばかりが続くとしたら、指導を見直す必要があります。質の高い授業はこれまでも数多く行われていますので、継承すべき指導については共有しつつ、改善すべき指導については、真摯に受け止め創意工夫していくことが大切です。

Q 5 小学校の外国語は、いつから全面实施ですか？

A 5 小学校外国語は、新学習指導要領において5・6年生で正式な教科となり、平成32年度から全面实施になります。年間授業時数は70時間です。これまで5・6年生で行われてきた外国語活動は、対象が3・4年生になり、年間授業時数は35時間です。

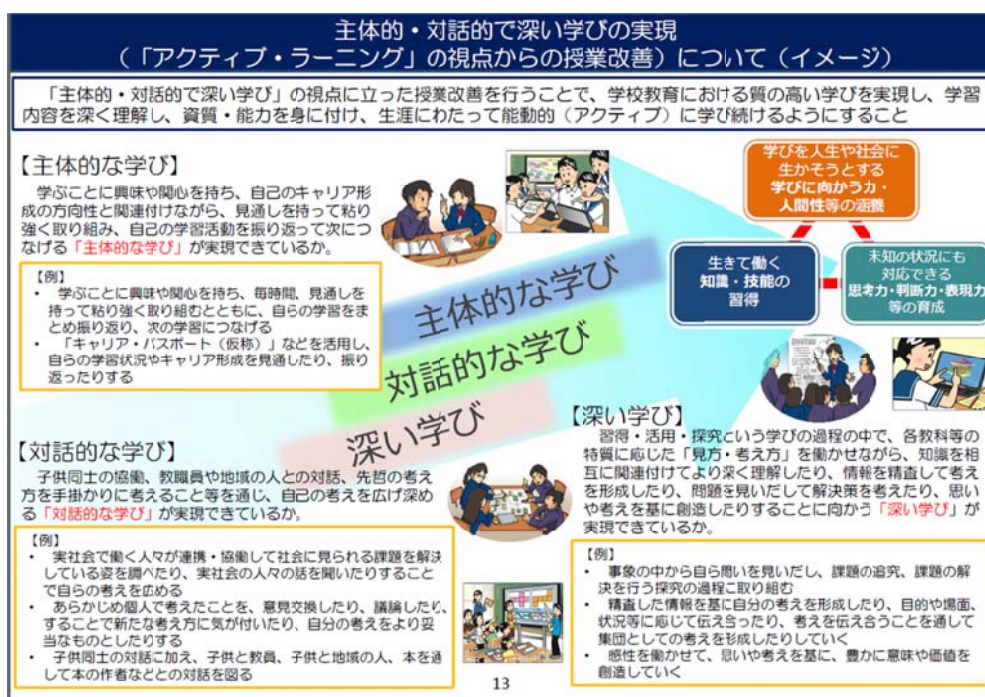
Q 6 「特別の教科 道徳」は、いつから全面实施ですか？

A 6 小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から全面实施になります。検定教科書や児童生徒の現状・実態を踏まえた効果的な指導を通じて、自分ならどのように行動・実践するか考え、自分とは異なる意見と向かい合い、議論する中で、道徳的諸価値について多面的・多角的に学ぶ道徳科の授業へと質的転換を図ることが求められています。

2. 主体的・対話的で深い学びについて

Q 7 主体的・対話的で深い学びの実現とは、どういうことですか？

A 7 中央教育審議会の配布資料では、「主体的な学び」は、学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげること、「対話的な学び」は、子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自分の考えを広げ深めること、「深い学び」は、習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かうこと、と例示されています。各学校は、授業実践を通して、より具体的な主体的・対話的で深い学びを実現した児童生徒の姿を明らかにして、授業改善に取り組みましょう。



(中央教育審議会教育課程部会資料)

Q 8 主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善で大切なことは、何ですか？

A 8 児童生徒のアクティブな学びの姿が現れつつ、ねらいが達成される授業を実現することが大切です。同時に、教師は、授業における児童生徒の実際の姿から、自己の指導について評価を行い、改善を図ることが大切です。その際、児童生徒の表面的な姿だけを捉えるのではなく、内面である思考の深まりまで捉え、より質の高い授業になるよう改善していきましょう。このような取組を全教職員が継続的・組織的に行うことで、学校全体の教育水準の向上が期待できます。

Q 9 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業は、毎時間行いますか？

A 9 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業は、1時間（1単位時間）の授業のみで考えるのではなく、単元や題材のまとまりの中で考えることが大切です。教師がじっくり指導する時間、児童生徒が協働して課題を解決していく時間等、ねらいの達成に向けて単元や題材のまとまりで授業をデザインする必要があります。その意識を持って授業を行い、児童生徒が考える場面と教員が教える場面をどのようにバランスよく組み立てるか考えながら授業を行うことが大切になります。

Q 10 授業において教師は、どのような役割を果たせばよいですか？

A 10 知識の定着を図る時などは、教師主導の指導が効果的な場合もあれば、児童生徒が協働しながら課題を解決する時などは、教師のファシリテーター的な役割が効果的な場合もあります。授業のねらいや学習活動に応じて、役割を考えながら授業を行うことが大切です。

Q 11 主体的・対話的で深い学びの実現には、どのような学び方が効果的ですか？

A 11 授業における児童生徒の学び方は、多種多様に存在します。この学び方を行えば、必ず主体的・対話的で深い学びの実現に向かうということはありません。同じ学び方でも教科の特性や授業のねらいによって効果の度合いは様々です。大切なことは、児童生徒の姿を想定しながら、ねらいの達成のためには、どのような学び方が必要であるか考えることです。型の追求に陥ることなく、学習者である児童生徒のことを第一に考えていきましょう。


Q 12 評価は、どのようなことに気をつければよいですか？

A 12 指導と評価の一体化を図ることです。例えば、国語で「読むこと」について指導したならば、指導したことについて評価を行うことで指導と評価の一体化が図れます。「読むこと」について指導したにもかかわらず、読み取ったことを表現した成果物を「書くこと」で評価することは、指導と評価の一体化が図られておらず、適切な評価ではありません。このようなことを避けるためにも、単元全体を見通した観点別評価計画を立てることが大切になります。授業においては、毎時間全ての観点を評価する必要はありません。1つないしは2つの評価規準に焦点化し、評価場面をしっかりと確保することが適切な評価へとつながります。

3. 新大分スタンダードについて

Q13 新大分スタンダードとは、何ですか？

A13 新大分スタンダードは、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着に加え、「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」の育成を目指す授業改善の視点です。新学習指導要領で求められている主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善をより分かりやすく、具体化したものになります。




新大分スタンダード

新大分スタンダードで
主体的・対話的で深い学びを！

「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成するワンランク上の授業

- 1 1時間完結型**
「主体的な学び」を促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」
*学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
*学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
*追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」
- 2 板書の構造化**
*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書
- 3 習熟の程度に応じた指導**
*「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
*「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫
- 4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開**
主体的・対話的で深い学びを創造する学習展開
各教科の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定⇒情報収集⇒整理分析⇒まとめ・発信・交流⇒振り返り・評価」等の学習過程の中で行われる
*問いの発見・解決、自己の考えの形成・表現、思いに基づく構想・創造
*様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充



安心して学べる「学びに向かう学習集団」

(大分県教育委員会HPより)

Q14 1時間完結型の授業とは、どのような授業ですか？

A14 教師にとって1時間完結型の授業とは、単元構想に基づいたその時間のねらいが達成される授業です。児童生徒にとっての1時間完結型の授業とは、この時間は何について考えればいいのか、解決のために何をするのか、答えや結論は何か等、1時間（1単位時間）の学びが明確で、「わかる・できる」を実感できる授業です。そのためには、学習の見通しを持たせるために「めあて」を設定したり、追及する事柄を明確にするために「課題」を設定したりすることが必要です。単にめあてや課題のプレートを黒板に貼り付けて、1時間（1単位時間）で授業が終わればよいということではありません。

Q15 「めあて」と「課題」は、両方設定する必要がありますか？

A15 「めあて」と「課題」は、必ずしも両方設定する必要はありません。「めあて」は学習のゴールやゴールまでの見通し、「課題」は児童生徒が追求すべき事柄です。教科等の特性、本時のねらい、単元の展開によって適切に設定して、児童生徒の豊かな学びにつなげていきましょう。

Q16 「めあて」や「課題」は、どのような表現にすればよいですか？

A16 児童生徒がその時間の学びを意識し続けることができる表現にすることが大切です。「めあて」と「課題」を使い分けるためにも、「めあて」は「～しよう。」「課題」は「～だろうか。」などの文末表現にすると、児童生徒の思考や視点は明確になります。各教科等の具体的な設定例は、大分県教育委員会HP（下記URL）を参照してください。

※参照URL <http://kyouiku.oita-ed.jp/gimu/2016/10/post-77.html>

Q17 「まとめ」と「振り返り」の違いは、何ですか？

A17 「まとめ」は、追求した「課題」に対する答えであり、「振り返り」は、児童生徒に本時の学びを振り返らせ自覚させるものです。まとめと振り返りは、役割が違います。教師が適切に「まとめ」と「振り返り」を使い分けることで、児童生徒の思考は整理され、学びの深まりが期待できます。

Q18 「まとめ」は、どのように行えばよいですか？

A18 まとめを行う際は、授業中に児童生徒から出された言葉や授業のポイントとなる言葉を生かしながら位置づけていくことが望まれます。1時間（1単位時間）を通して、児童生徒とともに作り上げ、共有するイメージです。また、その時間の「まとめ」を児童生徒が確実に理解できるように、発達の段階に配慮しながら課題に対応した分かりやすく明確な表現にすることも大切になります。

3. 新大分スタンダードについて

Q19 「振り返り」は、どのように行えばよいですか？

A19 「振り返り」は、めあての達成状況についての自己評価や「新しく気づいたこと」「もっとこうしたかったこと」「次の時間にならばってみたいこと」など、視点を提示することが大切です。本時のキーワードや学習用語を用いる等の条件を設定することも大切になります。また、単元を通して継続的に「振り返り」を書くことで、児童生徒は自分自身の学びの深まりや成長・変化を実感することができます。口頭による振り返りも考えられますが、基本的には書くことによる「振り返り」が望まれます。

Q20 板書の構造化とは、どういうことですか？

A20 めあてや課題、児童生徒の考え、ねらいに迫るキーワード等が適切に位置づけられ、児童生徒の思考の整理や学びの深まりにつながる板書です。その際、発達の段階に応じて、適切な文字の大きさ、量、配色、位置など、ユニバーサルデザインのよさを生かすことも大切です。このような構造化された板書を通して、児童生徒は、何を学んでいるのか、どのような過程で学習が進んでいるのか、分かったことや課題に対する答えは何か等、1時間（1単位時間）の学びについて効果的に振り返ることができます。

Q21 習熟の程度に応じた指導において大切なことは、何ですか？

A21 習熟の程度に応じた指導を行うためには、適切な評価規準の設定が必要です。また、実際に評価を行い、児童生徒が概ね満足のいく状況に達しているのかどうか、的確に判断する必要があります。その上で、概ね満足のいく状況に達していない児童生徒に対しては、適切な指導や支援を行い、その時間のねらいを達成できるようにすることが大切です。

Q22 生徒指導の3機能を意識した授業とは、どのような授業ですか？

A22 「授業の場で児童生徒の居場所をつくる」「わかる授業を行い児童生徒の主体的な学習態度を養う」「児童生徒に共に学び合うことの意義と大切さを実感させる」等を意識した授業です。授業は、学校生活の基本であり、児童生徒の信頼関係を築く場になります。友達を受容する雰囲気の中、一人一人の児童生徒が自分の考えを持ち、交流活動を通して認め合ったり、みんなの前で表現したりする授業は、児童生徒の自己有用感、自己肯定感、自己存在感の向上が期待できます。